

真和館だより 第8号

風の彩り

真和館の利用者サービスについて(その4)
～ストレンクス視点に向けた取り組みについて～

施設長 藤本和彦

新年明けましておめでとうございます。真和館は6回目の正月を迎えることができました。本当に有難いことであります。今年もどうか、宜しく願い申し上げます。

昨年は、念願であった第三者評価の受審が10月に終わり、現在は結果を待っているところであります(監査法人による外部監査は実施済)。

6年目にしてやっと、一人前の施設になれたような気が致しています。

しかし、現場では次から次に新たな課題が出て来ます。今の最大の課題は、これまでの支援のやり方では、施設特有のパターナリズムに陥りがちになるので、できるだけ、入所者ご本人の持てる力を引き出す支援、ストレンクス視点に立った支援を職員の皆さんと一緒に模索し始めたところであります。

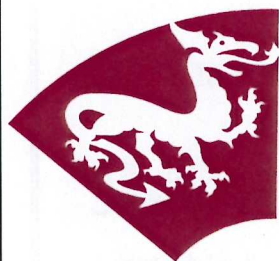
確かに、これまでの真和館の支援も、入所者の苦情や要望を積極的に取り上げ、即解決を図ると共に、入所者の処遇に関わる件については(食事・お風呂・スケジュール・行事など)全て、入所者のみなさんと話し合い、了解を頂いた上で実施に移していました。

しかし、これだけでは、本人の力を引き出すという支援までには至らず、どうしても入所者の方は、受身になってしまいます。そこで、行事やクラブ活動は勿論のこと、入所者の処遇に関わることについては、計画の段階から参画いただき、自分達で計画を立て、役割を分担し、実施いただくように持つて行こうということになりました。

まだ、始めたばかりですから、今後どう展開するかわかりませんが、確かに、リーダーになった方は張り切りますし、役割を引き受けた方も精一杯やり遂げようと努力をされます。これまでの流れを見れば、良い効果が生み出せそうです。

幸い、時代の流れも、真和館が重点的に取り組んで来た精神障害者やアルコール依存症者の処遇問題が益々注目されだし、国におかれては、平成23年4月1日から救護施設にも精神保健福祉士の加配の制度を設けられました。

真和館ではこれを契機として、より、専門性のある高い処遇ができるよう、優秀な人材の確保や職員の能力開発あるいは資格取得に向けて努力を重ねて参ります。関係者のみなさまの一段のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。





《相談支援研修会》

平成23年8月より、前 独立行政法人国立病院機構南九州病院相談員 久保裕男様を顧問でお迎えし、相談支援研修会を実施しております。

久保先生は、35年間難病の方の相談支援を行ってこられた方です。

研修会では、他者理解・自己理解や事例検討の意義と進行、会話と援助的面接の相違などを学びました。現在は、久保先生提供の事例検討へ進んでいます。

このことにより、職員一人一人が
「人のこころや気持ちを考える」
「相手の想いを傾聴し共感する」
「相談者自身の気づき」
「言葉に出して言うことの大切さ」
などを学んでいます。

真和館では現在、職員中心の支援から入所者主体の支援方法に変えつつあります。相談支援研修会で学んだことが、大きく活かされていくのではないかと期待をしているところであります。

【久保先生の著書】

「MSWハンドブック ～難病相談・支援を通して～」
日本プランニングセンター発行

真和館職員の 資質向上に向けての取り組み

《QC活動》

平成23年10月7日より、第5期目の真和館QCサークル活動がキックオフされました。平成19年から始まった真和館QC活動も今回で第5期目になります。今回は5つのサークルが、3月中旬に予定している内部発表大会までの約5ヶ月間、5S活動・業務改善・サービスの質の向上に関連したテーマで活動を行っています。

12月には、顧問の改善サポートオフィス川久保川久保俊朗先生にお越し頂き、各サークルの進行状況を確認するための中間報告発表会を開催致しました。その時に先生から頂いたアドバイスやご指導を、各サークルのこれからの活動にしっかり生かして実りあるQC活動にしていきたいと思っています。

＜今回のテーマ＞

1. 「一分間のエンパワメント」
介護職員4名
2. 「新メニューへの挑戦！」
調理員4名、栄養士1名
3. 「JDI活動の推進」
介護職員3名、事務職員1名
4. 「排便コントロールを円滑にしよう！」
看護師2名、介護職員2名
5. 「仕事のスピードUP!!」
介護職員4名



職員研修報告



独立行政法人 国立病院機構
南九州病院 筋ジス病棟 実務研修

救護施設 しみず園(佐賀県) 実務研修

研修者 : 江崎美樹(支援課 介護支援班)
研修期間: 5日間(月曜日～金曜日)

研修者 : 森田良治(支援課 介護支援班)
研修期間: 5日間(月曜日～金曜日)

平成23年6月13日～17日までの5日間、鹿児島県の南九州病院(筋ジス病棟)に実務研修に行かせて頂きました。

平成23年11月14日～18日までの5日間、救護施設しみず園にて、実務研修をさせていただきました。

筋ジスの患者様と関わるのは初めてのことであり、「筋ジストロフィー＝重篤」と捉えていましたが、実際にはスタッフの方は患者様を特別扱いはなく、例えば、寝たきりであっても入浴は一般浴に入ったり、排泄は専用トイレを利用したりと、残存機能を最大限維持できるようにサポートが徹底されていました。

しみず園は、1係から4係まであり、入所者総数110名と真和館の2倍強の入所者の方が生活されていました。特に農作業に力を入れておられ、毎日専属の職員により、野菜作り、土作り、収穫と10名から15名の入所者の方が自主的に活動されました。担当の職員の方の話では、この活動を通して、その中から、一人ひとりの入所者の方が自分には何が出来るか、何をしたいかを考え、展開していく場を提供していると話されていました。また、それを裏から支えるという支援に徹しておられました。

また、患者様も、PCを使ってコミュニケーションをとられたり、グラフィックデザインの仕事や家族旅行、おしゃれ等を楽しまれ、生き活きと過ごしておられました。

充実した、あっという間の5日間でしたが、スタッフの方の仕事に対する情熱や真剣さに感動し、大きな刺激を受けた実務研修となりました。

この研修を終え、これから先、真和館に入所されている方達が、自ら考え、動きながらその先にある自立という目標に近づくためのヒントを得たように思えました。

秋の旅行「グラウンドゴルフ」コース

平成23年11月4日(金)、「阿蘇高原ホテル」へグラウンドゴルフに行ってきました。皆さんゴルフ場に行くのは初めての方ばかりで、阿蘇の杵島を正面に、どこまでも続く美しいグリーンに歓声があがっていました。



生憎のお天気模様も何のその。勾配を利用したり、芝目を読んだりと真剣な表情で伸び伸びと、プレイされていました。16ホールを満喫した後は、ホテルで懐石料理に舌鼓を打ち、カラオケを楽しんでおられました。また、行きたいですね。

《第4回火の国杯争奪九州卓球バレー大会》

平成23年11月20日(日)、熊本県身体障がい者福祉センター体育館にて開催され、第4回火の国杯争奪九州卓球バレー大会に参加しました。

まだ、一ヶ月そここの練習しか出来ていませんでしたが、2チーム(12名)参加しました。他の参加チームの中には、国体クラスのレベルがあるチームも参加されていました。卓球バレーという競技自体が、まだまだこれからの競技であり、九州でも実施しているチーム数も少ないということです。

ただ、競技自体は、車椅子の方、片麻痺の方、精神に障害をお持ちの方も手軽に参加できる競技です。参加された入所者の方達も試合を通し、いきいきとしてプレーを楽しんでおられ楽しい時間を過ごされました。



卓球バレーの練習風景

第5回ふれあい交流会

西原村保育園児及び地域の皆様方に参加いただき、平成23年7月31日(日)13:00から「第5回ふれあい交流会」を開催しました。

毎年ボランティアとして参加して下さっている身体障害者茶道クラブ「もえぎ」様によるお点前をはじめとして、ウォークラリー、お菓子のつかみどり、輪投げ、合唱クラブ、バナナの叩き売り、タコ・タイゲーム等、様々なゲームを用意して皆様との交流を図りました。

メインゲストには、小さなお子様から、大人の方まで幅広い人気の「寿咲垂似」さんをお招きして熊本弁で語る民話「阿蘇大明神と根子岳のお話」「浦島太郎」のお話しをしていただき、パネルシアターを使った「カレーライスを作ろう」では、小さなお子様も夢中になっておられました。

＜真和館合唱クラブ＞



＜もえぎ茶席＞



＜タコ・タイゲーム＞



＜お菓子のつかみどり＞



＜メインゲスト・寿咲垂似様＞



＜バナナの叩き売り＞



断酒の取り組み

《断酒会の取り組み》

真和館断酒会が始まり、5年6ヶ月が経過しました。現在は、アルコール関連の教材から資料を抜粋して、学習を兼ねた断酒会を行っております。東日本大震災の被災地でのアルコール依存症増加、アルコールハラスメント、ER(救急救命センター)と問題飲酒者、自助グループの有効性、アルコール専門医の話など毎回テーマを替え、テーマに沿った内容から自分の体験談を話していただきます。昨年と比べて、参加者の方が体験談を話す時間が長くなったように感じます。体験談に共感をすれば、それに合わせて自分の体験談を話し出す方もおられ、さらに、それに便乗して別の方が話したりと、和んだ雰囲気を醸し出す時もあります。家族の話になると、真剣な表情をされたり遠い目をする方もおり、一人一人過去は違っても家族を思う気持ちは一緒だと感じます。アルコール依存症者にとって断酒会のような自助グループは欠かせない存在です。今、真和館断酒会は一人ひとりが繋がっています。これからも、断酒の意識を継続していただき、新たな取り組みを実施できるような断酒会を展開していきます。



《アディクションフォーラム》

平成23年11月27日、熊本市城南町の火の君文化センターで第11回アディクションフォーラムが開催されました。始めに、菊池有働病院の南先生(本法人理事もしていただいています)が、自助グループの進め方として、断酒会の規範やAAの12の伝統に沿うなど基本を抑えた上で進行することが重要であるというお話しがありました。次に、断酒会・断酒会家族会・アメシスト(女性のアルコール依存症)・AA(無名のアルコール依存症者)・GA(ギャンブル依存症)・NA(薬物依存症)・ギャマン(ギャンブル依存症の家族)・精神障害当事者の体験談が話されました。午後からは、各々のグループに分かれてモデルミーティングが実施され、関心のある断酒会家族会のモデルミーティングへ参加しましたが、「子どもが主人のようにならないでほしい」「子どもが結婚できるか心配」とアルコール依存症の親をもつ子どもの成長を大変気にされていたことが印象的でした。真和館では、断酒会とAAに取り組んでいます。入所者へアディクションフォーラムのような会への参加を促して行き、一つでも何かを得て自ら展開できるような機会を作っていきたいと思っています。



《AA熊本地区 第21回オープンスピーカーズミーティング》平成23年9月4日:アスパル富合

真和館内AAメンバー6人が参加しました。「新たな出会いアルコール依存症からの回復」をテーマに回復のプログラムや各関係者からの発表がありました。友好グループからのスピーチでは、それぞれの壮絶な体験を語られました。心に「新たな出会い」を覚え大いなる力で回復に繋がる貴重なお話を聞く事ができました。

《第3回AA九州・沖縄地域広報&病院施設フォーラム》平成23年10月23日:福岡市民会館

「アルコール依存症からの回復 ～AAをご存知ですか～」

第3回AA九州・沖縄地域広報&病院施設フォーラムに参加しました。実行委員長の話では第1回佐賀地区、第2回鹿児島地区、今回の運びとなったそうです。「アルコール依存症は、やる気が無い、怠け者、と思われがちである。そうではなく、病気である。完治はしないが回復する、日常生活の中で回復できるのだ、という事を解って頂きたい。それは一人ではできない、周りの支えがあってこそ出来る。」と力強く挨拶されました。回復とは「しあわせを感じる事ができるということ」と雁の巣病院院長、熊谷先生のお話。A類常任理事金杉クリニック院長、金杉先生の話の中に「この20年でアルコール依存症の病棟が出来、回復する力もあると認識される」とありました。こうざき内科消化器科クリニック院長の神崎先生は「メルトダウンしても気付かない原発みたいなアルコール依存症」と表現され「小さい頃から酒に対する教育が必要である」と話されました。一本松すずかけ病院、看護主任古田先生は「病院での治療が回復の第一歩、実際歩いていくのは退院してから、その手助けにAAがある」、と話をされました。

《第27回熊本アルコール関連問題学会》平成23年12月3日:熊本市総合保健福祉センター

第27回熊本アルコール関連問題学会に参加しました。総会后、座長尾上毅様(菊陽病院医師)の進行により、演題1「クリニカルパスを導入してからの看護の関わり」あおば病院 高石直之様・藤本亜伊様(看護師)、演題2「地域におけるアルコール依存症患者とのかかわり」阿蘇保健所 須藤牧子様(保健師)、演題3「若竹エブリデイでの断酒行動の調査～断酒継続につながる因子の検討～」八代更生病院 大笹太土様(看護師)、演題4「アルコール依存症者への多職種チームによる関わり」国立病院機構菊池病院 辻浩子様(作業療法士)の研究発表がありました。

その後、①日本嗜癮行動学会(大分開催)桜が丘病院医師 赤木健利様、②日本アルコール関連問題学会(佐賀開催)益城病院看護師 木原正司様から学会報告がありました。最後に、「沖縄県のアルコール問題の現状と対策」と題し、国立病院機構琉球病院医師 大鶴卓様の講演がありました。

心みがきの講演会

《第20回心みがきの講演会》

平成23年1月14日、益城病院院長犬飼邦明先生をお迎えし、「認知症について」をご講演いただきました。

認知症は最初、日付や時間がわからない、物や人の名前を代名詞で呼んだり、同じ事を何度も言うなどの症状が出てきます。もの忘れには2つのパターンがあり、その一つは老化によるものであり、もう一つは認知症による「もの忘れ」であります。老化によるもの忘れは「体験の一部を忘れる」、しかし、「ヒントを与えられると思い出す」、しかも、「もの忘れに対して自覚がある」、そのため、「日常生活に支障がない」。

認知症によるもの忘れは、「体験全体を忘れる」、「新しい出来事を記憶できない」、「時間や場所の見当がつかない」などの症状が現れる。

対策としては、ウォーキングや料理、旅行計画を立てること等により脳が活性化され、認知症予防に役立つというお話がありました。

益城病院は、認知症疾患医療センターの認定を受けておられ、専門的な立場から認知症の方やその家族を支えておられます。真和館入所者の認知症の方もたくさんお世話になっています。

《第22回心みがきの講演会》

平成23年10月25日、熊本県大津警察署長警視 那須賢児様をお迎えし、「人としてどう生きるか」をご講演いただきました。

「犯罪を犯した人も立ち直っておられ、この方達に対して自分としては人間性を否定したことは一度もない。人間はどのような人間であっても皆平等である」という気持ちで仕事に取り組んで来た。

「人生を生きていくためには、自分の夢を持って生き、自分はダメだと絶対に思ってはならない。きついことがあったら、これは楽しいことの前兆だ」と思うようにすることが大事である。

できないと決めつけたら何事もそれで終わりである。結果を恐れずにできると思ってチャレンジすることが大事である。汗水流して努力をする姿は素敵である。周囲に迷惑をかけたとしても努力をすることが大事である。「長生きしてみてもわかることがたくさんある」と警察官として・父親として生きてこられた自らの軌跡を通して、深い思いを語っていただきました。人としてどう生きるか、署長様の話をしっかり受け止め、これからの人生を前向きに生きて行きたいものです。



夏・秋の旅行



《夏の旅行》

8月末から9月上旬に、キャンプ・お芝居見学・お食事会に分かれ夏の旅行を実施し、42名の方が参加されました。

今回のキャンプは、リーダーさんにキャンプ場との打ち合わせやミーティングの司会進行をしていただきました。

ミーティングでは、入所者の皆さんが中心となり、当日の役割分担、行程、食事内容等、多くの事を話しあい、行く前から盛り上がっていました。キャンプの最終日には、皆で、秋の旅行で計画している阿蘇高原ホテルの見学もしました。



～夏の旅行～

Aコース キャンプ

1日目: 大観峰→古代の里キャンプ場

2日目: 草千里→小池水源→阿蘇高原ホテル見学

Bコース お芝居見学: 片岡演劇道場(筑紫桃太郎一座)

Cコース 食事会: 阿蘇ファームランド・ファームレストランまきば

～秋の旅行～

Aコース: グラウンドゴルフ(阿蘇高原ホテル)

Bコース: お芝居見学(片岡演劇道場)

Cコース: お食事会(ジョイフル・ミルク牧場・まきば)

地域との交流

《西原村老人健康づくり推進スポーツ大会》

平成23年11月9日(水)、西原村グラウンドにて行われました、西原村老人連合会主催のスポーツ大会に参加させていただきました。

今年は、9名の入所者の方が参加され、魚釣り・グラウンドゴルフ・宝さがし・玉入れと様々な競技に参加し、地域の住民の方達とのふれあいを持つ良い機会となり、笑顔も見られていました。今後ともよろしくお願ひします。



厳しい寒さの中、皆様いかがお過ごしでしょうか？寒い季節は部屋にこもりがちになり、体力・気力ともに低下し、抵抗力が落ちる原因ともなります。

例年のようにインフルエンザが流行する時期でもあり、健康管理には十分に気を付けたいところです。皆さん一人ひとりが「自分の事は自分で管理する」というように、日頃からの手洗い・うがい、それと同時に栄養を十分に摂って抵抗力をつけて、この寒い冬を乗り切りましょう。



医務室からのお知らせ



湯浅晴朗さん

9月からお世話になっている湯浅晴朗と申します。今まで培った経験を活かし頑張りますので、よろしくお願い致します。



佐藤友佳さん

こんにちは。去年の10月から入りました栄養士の佐藤友佳と申します。冬の寒さに負けないよう、皆さんにお食事を提供しますので、残さず食べて下さいね。よろしくお願い致します。



高橋百合美さん

初めまして、高橋百合美です。早く皆様の名前と顔を覚えて頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



牛嶋正敏さん

平成23年12月21日に入りました牛嶋正敏です。みなさんから喜んでいただける料理を作る為努力しますので、よろしくお願い致します。

新任職員紹介

みなさん、こんにちは！

調理室からです。

今回の便りは12月に提供し、みなさんから好評だった新メニュー「かるかん饅頭」レシピを載せたいと思います。

【材料】6個分

- ・上新粉 38g
- ・上白糖 15g
- ・水 18ml
- ・卵白A 30g
- ・こしあん 45g
- ・ベーキングパウダー 0.3g
- ・山芋 48g
- ・上白糖A 7.5g

【作り方】

- ①ボールに上記材料の上新粉から山芋までを入れ、少しずつ水を加えながら手で混ぜます。
- ②別のボールにAの卵白と上白糖を加えます。
※この時、上白糖を分けて加えます。
泡立てて、メレンゲを作ります。
- ③①に②を加えて混ぜ合わせ、生地を作ります。
- ④生地の半分をカップや型に流し、あんをのせ、上から生地の残りの半分を流します。
- ⑤最後に15分～30分ほど蒸して完成です。



調理室便り

お誕生者の案内

1月	1日 平崎さん	3月	5日 澤田さん
	6日 小石川さん		8日 山下さん
	6日 本田(己)さん		20日 園田(慶)さん
	10日 山浦さん	4月	29日 元田さん
	11日 富田さん		3日 坂崎さん
	12日 石坂(正)さん		3日 泉さん
2月	14日 佐藤さん	6月	17日 岩永さん
	16日 緒方(ム)さん		24日 池田さん
	25日 小田昇さん		1日 松村さん
	31日 杉本さん	2月	12日 久義さん
	1日 川野さん		30日 高原さん
	2日 緒方(マ)さん		
	4日 和泉さん		
4日 柳田さん			
16日 西川さん			
25日 藤川さん			
25日 園田(征)さん			

編集後記

明けましておめでとうございます。

皆さんはお変わりなくお元気でしょうか？ここ真和館では年明けから雪が降り、寒い日が続いております。今年、真和館は第三者評価が終わり、また、新しい4名の風を呼び込み、新たなスタートを切る年となります。これからも「風の彩り」で、真和館の活動をお伝えしたいと思いますので、今年もどうぞよろしくお願い致します。

＜編集責任・広報委員＞
田上・湯浅

発行：社会福祉法人 致知会

救護施設 真和館

〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072番地

TEL:(096)279-1121 FAX:(096)279-1122

E-mail:shinwakan@utopia.ocn.ne.jp

HP:http://www2.ocn.ne.jp/~titikai/index.html

※「風の彩り」に掲載されている写真等は、ご本人の了解を得ております。